大日本図書
2023 spring
Vol.4
教授用資料

シリーズ
学校教育とSDGs
総集編

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

著者紹介
静岡大学教授
田宮 縁

環境との相互作用の中で、総合的に学ぶことを研究の領域としており、ESD、教師教育、学校種間の接続などをテーマに、教育実践、現場に軸足をおいた研究を進めている。
主な著書は、『体験する・調べる・考える 領域「環境」』（萌文書林）

シリーズ「学校教育とSDGs」Vol.1から1年

シリーズ「学校教育と SDGs」執筆の機会をいただき、1 年が過ぎようとしています。2022 年 2 月のロシア軍のウクライナ侵攻は、拙稿執筆時点では、未だに出口が見えない状況にあります。また、イギリスで観測史上初の気温 40 度超などの異常気象は、人々の生活に大きな影響を与えています。最初は抵抗感のあったマスク着用の生活も、今では定着しているようにさえ感じています。かつて「異常も、日々続くと、正常になる」と映画のキャッチコピーがありましたが、それに近い感覚を覚えます。一旦、立ち止まり、私たちの身の回りで起こっていることや自分の行ってきたことをリフレクションする時間も持続可能な社会の創造には欠かせないと思いました。

さて、先生方から、シリーズ「学校教育と SDGs」の「バックナンバーを読みたい」、「通して読んでみたい」との要望をいただいております。拙稿では、Vol.1 ～ 3 の内容とアクセス方法を紹介した上で、教育現場から寄せられた SDGs デジタル絵本の活用方法や子どもの感想、最後に新たな展開を紹介したいと思います。

Vol.1 動物を通して持続可能な社会を考える

CONTENTS

ある動物の死
ジュンを通して持続可能な社会を考える
SDGs とは
No one will be left behind
動物と一緒に地球の未来を考えよう
①オランウータンの現状
②私たちの生活との関わり
③困っているのはオランウータンだけではない
ウェディングケーキモデルで考える
学校教育では何をめざしたらよいのか
動物を通して考えること

Vol.2 活動を通して持続可能な社会を考える

CONTENTS

教材開発のバックステージ
①スタートアップ
②リーフレット「No one will be left behind 動物と一緒に地球の未来を考えよう」
③ SDGs デジタル絵本プロジェクト
④プロモーションの必要性
⑤プロモーションのツールを振り返る
子どもたちから学んだこと
①パイロットスタディ
②低学年バージョンを通して子どもや先生から学んだこと
③高学年バージョンを通して子どもや先生から学んだこと
子どもとともに学ぶ大人
①パイロットスタディから 3 ヶ月　～ 5 歳児
②パイロットスタディから 3 ヶ月　～ 5 年生
よりよい未来を創造するために
～課題を知ること、共感的に考えること

Vol.3 持続可能な社会の創り手を育む教師

CONTENTS

SDGs を推進するための教師教育
～全国幼児教育 ESD フォーラム～
「ソダツバヒカリ」の実践と背景
①子どもと一緒に生活を創る
②ひかりの森こども園の実践
③子どものありのままを受け入れられる背景
④包括的に子どもの発達を捉える場
持続可能な社会の創り手を育む教師
①教師エージェンシーを発揮する
② SDGs はひとまず脇に置く
③「持続可能な社会の創造」から「未来社会のデザイン」へ

回覧

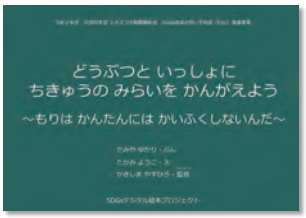
SDGs デジタル絵本 低学年バージョン
～学びの余白を残す

リーフレット「No one will be left behind」は、2019 年度しずおか中部中枢都市圏課題解決事業助成金を活用し、スタートしたものです。続いて、2020 年～ 2021 年度の SDGs デジタル絵本プロジェクトは、文部科学省ユネスコ活動費補助金「SDGs 達成の担い手育成（ESD）推進事業」の「ESD を基軸とした質の高い幼児教育の推進と学校種間の接続」というプロジェクトの一端として活動してきました。文部科学省ユネスコ活動費補助金は単年度で成果（アウトプット）と波及効果（アウトカム）を求められるのですが、特に SDGs デジタル絵本プロジェクトは、2022 年度にも多くの先生や子どもたちにご覧いただいたり、ミニ絵本などのプロモーションのツールを手に取っていただいたりすることができました。

「動物と一緒に地球の未来を考えよう」は、以下の 3 つの成果物があります。

「No one will be left behind」

どうぶつと いっしょに ちきゅうの みらいを かんがえよう
～もりは かんたんには かいふくしないんだ～
（SDGs デジタル絵本低学年版）



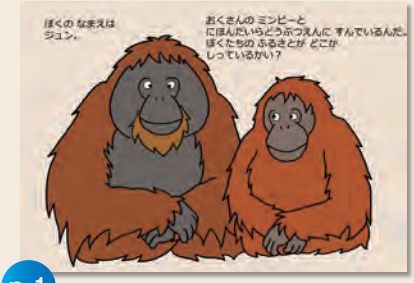
動物と一緒に地球の未来を考えよう
～森は簡単には回復しないんだ～
（SDGs デジタル絵本高学年版）

スタートのリーフレット「No one will be left behind」は、必要な最低限の情報だけを掲載したものです。また、SDGs デジタル絵本の低学年バージョンは、5 歳児にも理解できるようにオランウータンのジュンに伝えたいことだけをシンプルに語らせました。内容をシンプルにすることで、学びの余白を残しました。学ぶ主体である子どもの発達段階や興味・関心により、さまざまな発展が期待できます。

絵本ですから、解説を入れずにお読みいただきたいと思います。「読み聞かせは、余分な解説を入れてしまうけど、動画版はオランウータンの言葉がストレートに伝わるね」と語ってくれた動物園関係者もいらっしゃいました。「オランウータンの森を守るためにできること」をみんなで考えた後で、もう一度、読んでみてもよいと思います。「自分でつくるミニ絵本」をつくりながら、各自で読み返すことも効果的です。そこで、子どもが疑問に思ったり、関心を示したりした箇所をもとに、個やグループでの調べ学習をスタートすることも可能です。小さいお子さんであれば、先生と一緒に調べるのもよいでしょう。小学校高学年のお子さんでも低学年バージョンを題材にしてよいと思います。ここから、1 ページずつ見ていきたいと思います。

どうぶつと いっしょに ちきゅうの みらいを かんがえよう ～もりは かんたんには かいふくしないんだ～

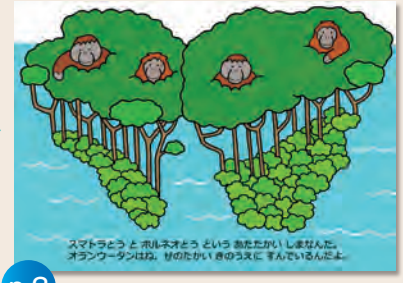
サブタイトルが、ジュンの伝えたいこと、この絵本を貫くメッセージです。



p.1

ぼくの なまえは ジュン。おくさんの ミンピーと にほんだいらどうぶつえんに すんでいるんだ。ぼくたちの ふるさとが どこか しっているかい？

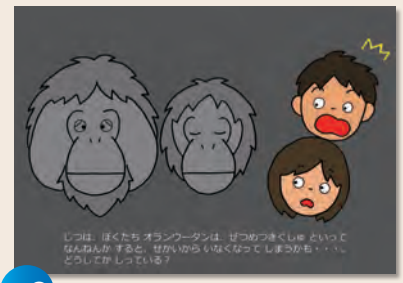
オランウータンを見たことのない子どももいるかもしれません。国内の動物園で飼育されているオランウータンは、スマトラオランウータンとボルネオオランウータン。日本動物園水族館協会の web サイトから飼育園を検索することができます。また、動物園から公式に発信されている画像も YouTube で視聴可能です。



p.2

スマトラとう と ボルネオとう という あたたかい しまなんだ。オランウータンはね、せのたかい きのうえに すんでいるんだよ。

「スマトラ島って、どこ？」「背の高い木って、どのくらいの高さなの？」などすんでいる場所や生態など掘り下げていく内容がたくさん含まれています。



p.3

じつは、ぼくたち オランウータンは、ぜつめつきぐしゅ といって なんねんか すると、せかいから いなくなって しまうかも・・・。どうしてか しっている？

「絶滅危惧種」という言葉を調べたり、他の絶滅危惧種に広げたりすることも可能と思われます。

※豊橋総合動物公園、鹿児島市平川動物公園、宮崎市フェニックス自然動物園、長野市茶臼山動物園の各バージョンも活用されています。

p.4

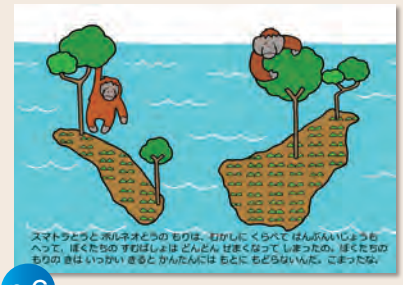
それは、みんなの せいかつと ふかく かんけいしているんだよ。

自分ごととして考えるきっかけとなるページです。

p.5

せっけんや おかしには パームゆ という あぶらが つかわれて いるんだ。パームゆを つくるために、オランウータンの もりを にんげんが こわして、はたけに しているんだよ。みんなが つかう かみも もりの きを げんりょうに して いるんだ。しっていた？

パーム油に関しては、WWF ジャパンや認定 NPO 法人ボルネオ保全トラスト・ジャパンの web サイトを参照されることをお勧めいたします。また、木から紙をつくる工程に関しては製紙会社の web サイトから検索が可能です。また、雑がみからハガキをつくるといった活動を取り入れてもよいかもしれません。



p.6

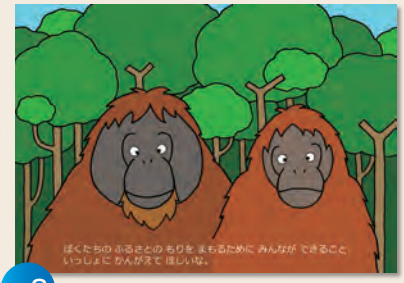
スマトラとう と ボルネオとうの もりは、むかしに くらべて はんぶんいじょうも へって ぼくたちの すむばしょは どんどん せまくなって しまったの。ぼくたちの もりのきは いっかいきると かんたんには もとに もどらないんだ。こまったな。

パーム油の原料であるアブラヤシの生産量や熱帯雨林の消失は、「No one will be left behind」や高学年バージョンにも統計資料を掲載してあります。それらのリファレンスも参考になると思います。

p.7

でもね。こまっているのは、ぼくたち オランウータンだけでは ないんだ。ゾウや サイ、めずらしい こんちゅうも いるよ。そう、みんなの なかま にんげんだって。

熱帯雨林の消失で困るのは、オランウータンなどの野生生物だけではないのです。アブラヤシの畑をつくるために、先住民が住むところを奪われるケースもあります。また、農場で働く人の児童労働や強制労働も問題になっています。森林の減少により生態系が崩れ、地球温暖化、砂漠化、災害の拡大など世界中の人々も以前と同じように暮らしていくことが難しくなってきています。



p.8

ぼくたちの ふるさとの もりを まもるために みんなが できること いっしょに かんがえて ほしいな。

巻末に、SDGs デジタル絵本で伝えたいこと、制作の意図、読み聞かせ後の話し合いのポイントなどを記載してあります。そちらをご参照いただけると幸いです。

静岡市立
日本平動物園
学習プログラム

デジタル絵本の核心 ―No one will be left behind

マスメディアの方々から制作プロセスで苦労した点や工夫した点を聞かれることがあります。その核心をつく質問に対し、私は次のように話していました。

私が時間をかけて考えた言葉が、7ページの「でもね」につながる6ページの「こまったな」です。幼児にもわかる言葉で、「誰ひとり取り残さない」社会を創るために必要な内容が7ページに詰まっているからです。オランウータンから他の動物、人間に広げ、つないでいくための「こまったな」と「でもね」です。

完成後に気づいたことですが、ジュンが自分の気持ちを直接的に語るのはここだけです。子どもたちのパイロットスタディでも、「オランウータンが困っているから、紙はこっちに」と自分達で声を掛け合っていた姿が報告されました。広がりや深みを加えることができたかどうかはわかりませんが、子どもたちの心には届いていたようです。

①小学生の感想

ある小学校の３年生の先生から「自分でつくるミニ絵本」の提供依頼がありました。低学年バージョンを授業で使用後、次のような子どもたちからの感想が送られてきました。

ぼくたちは、しぜんをこわしているってはじめて知った。オランウータンは、ぼくたちが木をとると、(生活する) スペースがへっちゃうってはじめて知った。(後略)

わたしはオランウータンが、くるしんでいるのに、わたしたちが、そのことを知らずに生きていてかわいそうだなと思いました。それでわたしたちができることは、せっけんとかむだにつかわなかったり、ノートを残っているのに買ったり、字を大きくかいて、むだにしたりしない方がいいとわかりました。

森が半分いじょうへってかわいそうでした。こまっているのは、オランウータンだけではなくてびっくりしました。森を守るためにおかしや紙をむだにしないようにしたいです。

オランウータンのすむ森がなくなってしまっているのがわかって、びっくりした。それにゾウやサイ、こん虫などもこまっている事がわかってびっくりした。(後略)

わたしはこのオランウータンの本を読んでびっくりしたよ。やっぱり自ぜんがなきゃ動物、こん虫、人間みんなが困っちゃうんだなと思いました。紙をむだにつかったり食べ物をのこしたりするのは、いけないんだなと思いました。これからはしぜんをたいせつにして、みんなうれしいキラキラしたせかいにしていきたいと思いました。そして、みんなが、こまる事がない明るい世界にできたらうれしいです。

3年生は、状況を知ることから始まると思います。オランウータンの状況、そして、人間も含めた他の生き物の状況。驚きや共感などが語られていました。さらに自分ができることは何なのか、また、未来に向けての希望も述べられています。全員分は紹介できませんが、以上のような感想が寄せられました。

②都内のある学校の校内研修

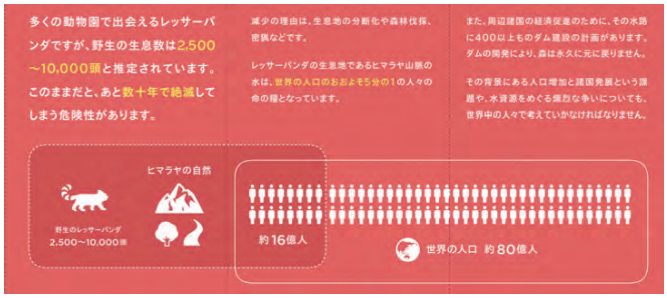
先生方に、SDGsデジタル絵本などを事前にご覧いただいた上で研修会にご参加いただきました。70分の講演のテーマは、「持続可能な社会の創り手を育む生活・総合ー SDGsデジタル絵本プロジェクトを手がかりに」。この研修会は、高学年バージョンを掘り下げていきました。講演後のグループディスカッションで、「スマトラ島やボルネオ島ではないですが」との前置きの後、「ガーナの農園で働いている子どもはチョコレートを食べたことがないそうですよ」と一人の先生が語り出しました。「ほんと？」と周りの先生は驚かれていましたが、それをきっかけにガーナの農園での児童労働について知っていることをお話しくださいました。私からは、「“ACE　チョコレート”で検索すると、詳細がわかると思います」と付け加えさせていただきました。この先生も前出の「7ページ」に注目をしてくださっていたのです。

教頭先生が研修会のおわりに「大人数の会議でお茶を出すときに、紙コップかグラスか、どちらがよいか、常に考えています･･･」という切り口から感想を述べられました。まさに、私たち自身が、その時の状況を考慮し、よりよい選択をしていくことが持続可能な社会の構築につながる、また、大人の生き方を子どもたちは見ている、ということを先生方は実感されたようでした。

新たな展開

10月、リーフレット「No one will be left behind Vol.2」を刊行しました。

Vol.2はレッサーパンダが主人公です。多くの動物園で出会えるレッサーパンダですが、絶滅の危機に瀕しています。ブータン、中国、ミャンマー、インド、ネパールの標高1,500～4,000mの森林に生息しているレッサーパンダの頭数の減少の背景は・・・



レッサーパンダの生態や動物園の行っている「種別調整事業」、レッサーパンダの生息地を守る取り組みなども掲載してあります。ノットワークラボからのダウンロードのほか、静岡市立日本平動物園ビジターセンターでもパネル展示、リーフレットの配架・配布をいたしております。ぜひ、お手に取っていただけるとうれしいです。

ノットワークラボ／公開資料

大日本図書
https://www.dainippon-tosho.co.jp
本　社　〒112-0012 東京都文京区大塚3-11-6　企画推進室　☎03（5940）8675
支　社　東日本　☎03（5940）8689　東京　☎03（5940）8674　関東　☎03（5940）8690
中部　☎052（733）6662　関西　☎06（6354）7315　九州　☎092（688）9595